

平成18年度 第2回 総会 議事録 (抜粋)

日 時 平成19年3月11日(日) 午後2時45分開会

場 所 国立スポーツ科学センター 大研修室

会長挨拶 昨年はカタールで第15回アジア競技大会が開催され、ボディビルでは谷野義弘選手が堂々の銀メダルを獲得し2位に入賞しました。残念ながらメダルは1個でしたが、日本オリンピック委員会正加盟団体としての面目は保たれました。

今年の大事な問題として公益法人改革があります。これは平成20年に公益法人と一般法人に分かれ、一般法人になると企業並みの税金を課せられますので、公益法人として認定されるために公益性のある事業をおこない、日本体育協会、日本オリンピック委員会などの国民の健康づくり、国民スポーツ振興にも積極的に参加していきたい。すでにオリンピック委員会には正加盟していますから、公益法人改革でも公益性を維持していけば公益法人として認定されるものと考えていますが、より一層姿勢を正していかなければなりません。

次に、スポーツ競技としてですが、日本オリンピック委員会に入り、アジア競技大会へ参加していますから成果を出していかなければなりません。

日本オリンピック委員会は最高の目標をオリンピックにおいており、ボディビル連盟もアジア競技大会、世界選手権で優秀な成績を国際競争の名において、メダルを多く獲得していかなければなりません。と言うことは選手強化ということです。メダルを取るようになると、日本オリンピック委員会からもメディアからも注目されます。このことからくるボディビルへの社会評価というのは計り知れないものがあります。

最後に普及拡大問題です。普及拡大には組織と選手層の二つがあります。ボディビルは競技面だけを見て理解されているところがあり、高齢者の健康づくり、介護予防という問題にも我々ボディビル連盟が対応できるという実績を実際に示していかなければなりません。

そのためには、我々の活動内容をより充実し、手法も多様化していかなければなりません。皆様にご協力をお願いしたい。

議長選出 定款22条により、議長は玉利齊会長を選出。

定足数の確認 正会員総数60名。本日出席正会員25名、委任状による出席正会員31名、合計出席正会員56名により正会員総数の過半数を上回り、定款第24条に基づき総会は成立。

【第一号議案】平成18年度後期事業報告

1. 国内事業

(1) 2006年第52回男子日本ボディビル選手権大会

2006年第24回女子日本ボディビル選手権大会

期日 平成18年10月1日(日)

会場 大阪・厚生年金会館芸術ホール 参加者 52名

(2) 2006年第18回日本マスターズボディビル選手権大会

JOCジュニアオリンピックカップ 2006年第18回日本ジュニアボディビル選手権大会

(3) 2006年第1回全国高等学校ボディビル選手権大会

期日 平成18年9月24日(日)

会場 東京都・江戸川区総合区民ホール(タワーホール船堀)

(4) 第28回ユニセフハンド・イン・ハンド「守りたい、子どもの命…子どもの未来」

恵比寿ガーデンプレイスにて

ボディビルゲスト出演 谷野義弘選手

連盟関係者のボランティアにて会場警備並びに募金活動、連盟宛に感謝状が贈呈された。

2006年12月23日(土・祝)13:00~16:00

(5) 2007 年第3回東アジアボディビル選手権大会開催視察
ポール・チュア氏(ABBF 事務総長)、クリスティーナ・カム女史(EABBF 事務総長)来日
山口県開催会場視察並びに県知事、市助役、県議会議長、商工会議所会頭に表敬訪問
2007 年 1 月 10 日(水)～14 日(日)

(6) 平成 18 年度公認指導員認定講習会
タワーホール船堀 平成 19 年 2 月 10 日～12 日実施
受講申込者 37 名(1 級 10 名、2 級 23 名、補講 4 名)

2. 国際事業

(1) 第5回日韓親善ボディビル選手権大会 (日本・大阪 2006.10.1)

玉利 齊	団長	
栗井直樹	監督	
小沼敏雄	コーチ	
津田 宏	選手・65キロ級	1位
村松幸夫	選手・70キロ級	2位
下田雅人	選手・75キロ級	2位
木澤大祐	選手・80キロ級	1位

(2) 第60回世界男子ボディビル選手権大会 (チコ・オストラハ 2006.10.27～29)

玉利 齊	団長	
吉田 進	監督	
鳥谷部 篤	コーチ	
今中直博	選手・80キロ級	15位

(3) 第27回世界ジュニア&マスターズボディビル選手権大会 (イタリア・アグリジェント 2006.11.9～12)

磯村俊夫	監督	
廣田ゆみ	選手・女子オープン	8位
奥村武司	選手・40才級70キロ	4位
小沼敏雄	選手・40才級80キロ	9位
片川 淳	選手・40才級80キロ	12位
難波文義	選手・50才級オープン	3位

(4) 第15回アジア競技大会 (カタール・ドーハ 2006.12.3～12)

第42回アジア男子ボディビル選手権大会

朝生照雄	監督	
青田正順	コーチ	
近藤賢司	選手・70キロ級	4位
須江正尋	選手・70キロ級	10位
谷野義弘	選手・75キロ級	2位
相川浩一	選手・80キロ級	11位

(5) IFBB総会の報告

冒頭、ラファエル・サントン八会長特別補佐より、ベン・ウイダー会長の引退が発表された。

それに伴う後任会長は、ベン・ウイダー前会長の推挙によりラファエル・サントン八氏が満場一致で選任された。

ジュニア選手権のルール改正について

出場資格は、21才になる年の12月31日まで有効。

マスターズ選手権のルール改正について

例えば、女子 35 才級での出場資格は、35 才になる年の 1 月 1 日より有効。

男子 40 才級での出場資格は、40 才になる年の 1 月 1 日より有効。

女子選手権のカテゴリーが3カテゴリーより、2カテゴリーへ改正。

A. ライト級 55 kgまで(55 kgを含む)

B. ヘビー級 55 kg以上(55 kgを含まない)

2008 年ブラジルで男子クラシックボディビル選手権を3カテゴリーで行う方向で決定。

A. 170 cm以下級 体重は、身長から 100 を引いて 2 を足す。(身長引く 98)

B. 170 cmから 178 cm級 体重は、身長から 100 を引いて 4 を足す。(身長引く 96)

C. 178 cm以上級 体重は、身長から 100 を引いて 6 を足す。(身長引く 94)

アンチドーピングの徹底。

席上玉利齊会長が指名され、日本のアンチドーピングの現状と世界でのアンチドーピングの徹底を呼びかけ、IFBB のアンチドーピングの徹底を全面的に支持することを発言した。

【第二号議案】平成 19 年度事業計画及び収支予算案

別紙事業計画書及び収支予算のとおり承認

【第三号議案】平成 19 年～平成 20 年度役員改選

1. 正会員(平成 19 年 4 月 1 日から平成 21 年 3 月 31 日まで)

(1) 地方連盟選出(46 名) JBFF 公式ホームページの名簿参照

2. 理事(平成 19 年 4 月 1 日から平成 21 年 3 月 31 日まで)

(1) ブロック選出(9 名) JBFF 公式ホームページの名簿参照

(2) 学 識(9 名) JBFF 公式ホームページの名簿参照

以上役員案について正会員が理事会で承認されたことが報告され、役員改選は候補案通りに承認された。尚、被選任者は就任を承諾した。

【第四号議案】新規加盟クラブ及び退会クラブについて

1. 新規加盟クラブ(4)

チーム・タイガーボディビル同好会(準加盟) 愛知県連盟 代表者：大原友則

スポーツジムGET(準加盟) 宮城県連盟 代表者：大津正久

BMBスポーツジム(正加盟) 京都府連盟 代表者：寺地永

オンリーワン フィットネスアドレッシングジム(準加盟) 長野県連盟 代表者：青木勝彦

2. 退会クラブ(2)

トレーニングジムごりら下館 茨城県連盟 代表者：杉山繁雄

蟹田WA同好会 青森県連盟 代表者：吉田祐司

以上の新規加盟クラブ、退会クラブについて承認された。

尚、公益法人改革があるため公認クラブの問題は重要で、本加盟、準加盟についてはルールに則り処理されているか、下部組織は再度確認するように玉利齊会長より要請があった。

【第五号議案】平成 19 年～20 年度日本連盟主催大会開催地並びに立候補について

1. 2007 年第 11 回日本クラス別ボディビル選手権大会の開催

(東アジア、アジア、世界女子ボディビル選手権派遣選抜大会) 神奈川県連盟

6月24日(日) 海老名市文化会館 神奈川県海老名市上郷 476-2

2. 2007 年第 12 回オールジャパンミスフィットネス選手権大会の開催 広島県連盟

2007 年第 1 回オールジャパンミスボディフィットネス選手権大会の開催

8月26日(日) 広島県民文化センター 広島県広島市中区大手町 1-5-3

3. 2007年第15回日本女子新人ボディビル選手権大会の開催 日本社会人連盟
2007年第7回ミス21健康美大会の開催
9月1日(土) きゅりあん(総合区民会館)小ホール 東京都品川区東大井5-18-1
4. 2007年第18回ジャパンオープンボディビル選手権大会の開催 岡山県連盟
2007年第24回ジャパンミックスペアボディビル選手権大会の開催
9月9日(日) 岡山市民会館 岡山県岡山市丸の内2-1
5. 2007年第19回日本マスターズボディビル選手権大会の開催 日本連盟マスターズ委員会
9月23日(日) タワーホール船堀 江戸川区船堀4-1-1
6. 2007年第53回男子日本ボディビル選手権大会の開催 日本連盟競技運営委員会
2007年第25回女子日本ボディビル選手権大会の開催
JOCジュニアオリンピックカップ2007年第19回日本ジュニアボディビル選手権大会の開催
2007年第2回全国高等学校ボディビル選手権大会の開催
10月8日(月祝) 日本青年館大ホール 東京都新宿区霞ヶ丘町7-1
7. ブロック合同ボディビル選手権大会開催地
 - (1) 2007年第6回東日本ボディビル選手権大会 長野県連盟
9月9日(日) 茅野市民会館 長野県茅野市仲町1-22
 - (2) 2007年第2回西日本ボディビル選手権大会 愛知県連盟
7月29日(日) 名古屋市芸術創造センター 愛知県名古屋市東区葵1-3-27
8. 平成20年度日本連盟主催大会立候補について
 - (1) 2008年第20回日本マスターズボディビル選手権大会の立候補確認(6月〆切)
但し、単独開催で交通の便の良い会場であること
 - (2) 2008年第12回日本クラス別ボディビル選手権大会 福岡県連盟 決定
7月20日(日) 飯塚コスモスコモン 福岡県飯塚市飯塚14-66

その他報告事項

1. アジア競技大会について、朝生照雄監督より詳細報告がなされた。
参加は、28ヶ国、116名。日本選手成績は以下の通り。

70kg級	近藤賢司	4位
70kg級	須江正尋	10位
75kg級	谷野義弘	2位
80kg級	相川浩一	11位
2. 東アジアボディビル選手権大会(山口県開催)の進捗、並びに大会の開催要項について実行協力の山口県連盟嶋岡克己理事長より説明報告された。また、選手・観客動員の協力要請があった。
3. JBBFプロ申請(合戸孝二選手)について
賛助会員の健康体力研究所より、現在のイメージキャラクターとして契約している山岸秀匡選手がIFBBプロ選手としてオリンピックの出場権を獲得し生活拠点をアメリカに移すため、健康体力研究所は新しく選手と契約をしたいとの申し入れがあったので、JBBFプロ選手認定の条件を満たしている合戸孝二選手を推薦し、合戸選手が契約を了解したので健康体力研究所に伝えた。商業活動を公認するためのJBBFプロ選手認定申請書が提出されたので合戸選手のJBBFプロ選手申請を諮り承認した。

4. アイアンマンの扱いについて

ボディビルの広報活動の一環として雑誌社との提携関係が重要であるが、「アイアンマン」誌は、過去に於いて反JBBFの継続的な連載記事を掲載したので取材拒否をしてきた。しかし2年ほど前より日本連盟主催大会の取材申請が出された。その際に日本連盟は、今後アンチドーピングに徹する。JBBFと対立している団体・選手をことさらに大きく取り上げる記事を掲載しない。過去に於けるJBBFを中傷してきたことに謝罪文を提出する。の3点を要求した。謝罪文については提出されたが、しばらく様子を見ることが以前に決議された。そこで、再度取材許可の申請があったので諮り、協定書を作成し認めることが承認された。協定書の内容は執行部に一任された。

5. 公認トランクスについて

ボディビル競技では公式用品用具は他のスポーツ競技に比べてほとんどない。その中では競技用トランクスぐらいしかないので、競技用トランクスをJBBFマーク入りの認定制にして、契約企業よりのロイヤリティを徴収することが諮られ、今後主催大会より採用していくことが承認された。具体的折衝は執行部に一任された。

6. JOC「平成19・20年度理事・監事候補者推薦書」について、日本連盟として、吉田進副会長を理事候補として推薦したことが報告された。

7. 主催大会主管連盟との約定書の内容で、大会運営収支決算が黒字の場合には、日本連盟補助金は返還することが諮られ承認された。

8. ドーピングコントロール委員会より、TUE(Therapeutic Use Exemption:治療目的使用の適用措置)の報告説明があった。TUEとは、病気や怪我の治療のために禁止物質あるいは禁止方法を使用する場合、事前に申請手続きを行って承認されれば、例外的にその治療を受けることができる制度のこと。また、ドーピングテストがユネスコ条約(文部科学省が参画)に則り、抜き打ち検査が主になっていくことが説明された。

9. 茨城県磯野武夫氏より、日本連盟への復帰願いが出された。このことで磯野武夫氏本人が理事会で今までの行為を謝罪したいとの申し出があり、自分の過去の行為が不明不徳と謝罪した。それを受けて理事会では磯野武夫氏の「日本連盟の審査員、指導員の資格停止、並びに下部組織の役職停止」の解除が諮られ承認された。

以上で、総会を終了。